

「無時代・無国籍風韓国映画」

2001年の日本のTVドラマ『Pure Soul』が原作といわれるこの作品、2004年の日本公開の際、知っていながら日本でそれを言う人がほとんどいなかったのは、この作品が韓国版リメイクというより完全に新たな世界を作り上げていたからだろうといわれています。

主人公2人の出会いの場所となるコンビニは「ファミリー・マート」、そこで二人を結びつける重要な役割を果たしたのは缶入りの「コカ・コーラ」、冒頭近くで最も印象的だったBGMはキューバとスペインを起源とするラテンの名曲「ラ・パロマ」。やがてストーリーが進み主人公の結婚シーンのあたりに流れ印象的だったBGMは歌劇「トゥーランドット」のアリア「ネッスン・ドルマ」→(トリノオリンピック开幕式でのパバロッチの絶唱と荒川静香のイナバウアーのBGMで日本でも一躍有名に)。ヒロインの恐らく「終の住み家」になる介護施設は南部ヨーロッパの保養地を連想させる明るく美しい高台→(作品中ではその場所はソウルの東方約170km日本海に面した観光地カンヌン市ということになっていました)など。

大人のおとぎ話のようなこの純愛映画の舞台として、周到にお膳立てされた無時代、無国籍的雰囲気の中で、私は、オープニング・クレジットのハングル文字以外ほとんど韓国映画という印象は受けませんでした。所詮つくりごとの純愛物語なのだという先入観があった私ですが、ストーリーの進展に従い主人公に素直に感情移入することが出来、この純愛映画の世界に浸ることが出来ました。

記憶喪失の進行につれて、感情的な荒廃が進むといわれる「若年性アルツハイマー」は、現実には決してキレイごとではすまない重く厳しい病です。日本では、商業映画として企画に乗せることすら難しいであろうこの病を正面から取り上げて、純愛物語の仕掛けにすることに成功したイ・ジェハン監督の力量に感銘を受けました。恐らく成功の最大要因は、寡黙で無骨だが、感情豊かで優しいガテン系男子とおっちょこちょいだが純粋なお嬢様女子を絶妙に演じた「男性からも幅広い支持を集める硬派俳優のチョン・ウソン」と「無茶苦茶スタイルがよく、純粋で可愛いソン・イェジン」の存在感あふれる好演だと思います。

「カンヌン市から届いたヒロインの手紙」、「介護施設で

の再会時のスケッチブックの中のイメージスケッチ」、「理髪店ででのローションの香りへのヒロインの反応」、「ファミリーマートでのヒロインのセリフ『ここは天国なの?』」、「ラストシーンで遂に使われるセリフ『サランへ』」・・・。大人のおとぎ話を無事軟着陸させるための、イ・ジェハン監督のきめ細かな仕掛けのに乗せられて、恥かしながら私も涙腺がうるみました。「とやかに考えず悲恋に浸るが勝ち!」というキャッチ・コピーに同感の117分でした。 K.M.

「名前を覚えられない韓国俳優と若年性アルツハイマーについて」

今回、初めての韓国映画の上映です。このコラム誌面の作成にあたっていろいろ調べていたのですが、図書館のDVDソフトに案外韓国映画が少ない(10本に満たないかも)のが意外でした。

新しい映画なので、監督名や俳優名で書籍をヒットさせるのは難しく、今回はAmazon.co.jpを頼りに検索しました。するとイ・ジェハンは今夏上映された中山美穂主演の『サヨナライツカ』の監督(観ていないけど、キネ旬で読みました)。チョン・ウソンはかつてよかった『グッド・バッド・ウィアード』のグッド役だったし、ソン・イェジンは、少女漫画的にときめいた『ラブストーリー』に出ていたのね〜、といまさらながらに認識。韓国俳優の名前は、欧米の俳優ほどには全く覚えられません。観る映画ごとに主演者が違っているし、韓国映画俳優の層の厚さもあるような気がします。

そして、私が「若年性アルツハイマー」を知ったのは、荻原浩の『明日の記憶』でした。そして、監督：堤 幸彦、主演：渡辺 謙の映画も話題になり、しばらく新聞紙上でも“若年性アルツハイマー病”が取り上げられていたような気がします。『私の頭の中の消しゴム』も『明日の記憶』も、アルツハイマー病の表現には、そんなにきれい事ではないといった批評もあったようですが、“若年性アルツハイマー病”という病の認知には、とても役に立ったのではないかと思います。

最近、説明的な映画が多いなあと感じていたところ、この映画では、二人が出会ってから結婚するまでのテンポのよさに、情緒があっていいなあと思いました。 e3

韓国映画：こんなのもオススメです。(e3)
『マラソン』自閉症の障害を持つチョウォンはによりも走るのが好き。韓国でナンバーワンでオンリーワンの感動作!
『トンマッコルへようこそ』1950年-"笑顔"を守るために俺たちは戦う。「戦争も武器も知らない村」で、男たちは国を超えてひとつになる! 800万人が興奮した、感動のエンタテインメント! "トンマッコル"を愛した男たちの誇りと勇気の話。



2010.12.2
vol.8

『私の頭の中の消しゴム』 シネマ・ド・りぶらの
コラム・ド・シネマ

.....
: 8月・10月のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。 :
: 上映にあたっては、いろいろな不手際をお詫びしておりますが、 :
: 多くの方々から励ましの声をたくさんいただき、今後の活動の励みになりました。 :
: アンケートの集計詳細は、次回にこのコラム上で発表させていただきます。 :
: 結果を考慮して次年度の計画に盛り込んでいきたいと思ひます。 :
: 今後ともよろしくお願ひいたします。 :
: りぶらサポータークラブ「シネマ・ド・りぶら」スタッフ一同 :
:

『私の頭の中の消しゴム』の原作は?」

韓国映画『私の頭の中の消しゴム』の原作は、読売テレビ2001年制作のドラマ『Pure Soul~君が僕を忘れても~』で、薫を永作博美、浩介を緒方直人が演じ、若年性アルツハイマーの進行する薫と浩介との日々を描いた物語です。そして、タイトルの『私の頭の中の消しゴム』は、このドラマのなかで、記憶の消えゆく様を、ヒロインの「私の頭の中には消しゴムがあるの」との台詞から引用したものです。

関連図書である小学館発行の『私の頭の中の消しゴム』の著者木村元子は、『Pure Soul~君が僕を忘れても~』の原案(塚本花恋名で『ピュア・ソウル~アナザー・レター』を角川書店から発行)とプロデューサーを担当しました。木村元子著の『私の頭の中の消しゴム』は東京を舞台として、ヒロイン薫がアルツハイマーの進行が止まらない中で、日記形式で浩介への思いを綴った物語です。 au

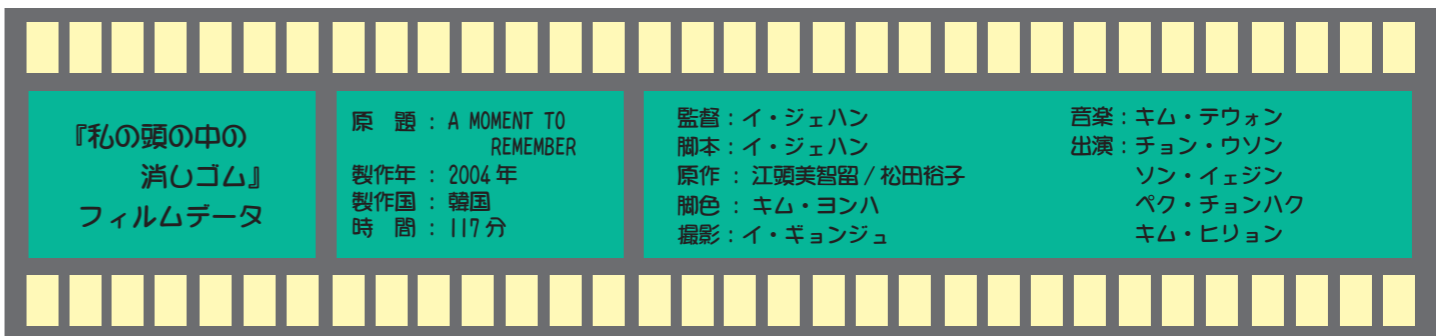
「若年性アルツハイマー」

アルツハイマー病は、脳を構成している神経細胞が通常の老化よりも急速に、いわば病的に減ってしまうことによって正常な働きを徐々に失っていき、認知症(痴呆)に

なっていく病気であり、原因はまだわかっていないが遺伝的な要因もある。この映画は2004年製作の韓国映画であり、オープニング場面は近代的なラテン音楽がボリュームいっぱい流れ、躍動的な高層建築が立ち並び現代のストーリーとして表現されていた。

スジンとチョルスとの運命的な出会いは、コンビニにてコーラの間違いトラブルから発生し、バッティングセンター、カードゲームなど、いろいろな場面に遭遇しながら二人の結びつきは高まり愛しあう。両親の反対(アルツハイマーの遺伝を考えてか)を押し切り結婚し、スイートホーム建設が進行している幸せ最高潮の二人であった。

ある日、スジンが友達に「最近帰り道を忘れるのよね」の言葉から物忘れが始まり、医師より病名を告知され不幸の日々が行動として現れてくる。チョルスも実態を知り、記憶を失っていく妻と、何とか記憶を繋ぎとめておきたいと願う夫の、純愛というか努力する美男・美女による格調高い恋愛ドラマであり、涙の止まらないストーリーであった。特に「もう優しくしないでいいよ、優しくされても全部忘れちゃうから」というスジンに、「俺がお前の記憶なる。俺が全てを覚えているから」と応えたチョルスのセリフが心に残った映画であった。 S.N



『私の頭の中の消しゴム』
フィルムデータ

原 題 : A MOMENT TO REMEMBER
製作年 : 2004年
製作国 : 韓国
時 間 : 117分

監督 : イ・ジェハン
脚本 : イ・ジェハン
原作 : 江頭美智留 / 松田裕子
脚色 : キム・ヨンハ
撮影 : イ・ギョング

音楽 : キム・テウォン
出演 : チョン・ウソン
ソン・イェジン
ペク・チョンハク
キム・ヒリョン

りぶらサポータープロジェクト 「シネマ・ド・りぶら」
『私の頭の中の消しゴム』 関連図書案内 & DVD

韓国映画

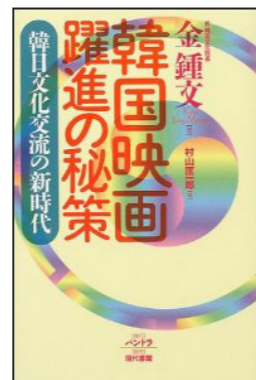


N 778.2 川村 湊 集英社
 『アリラン坂のシネマ通り
 韓国映画史を歩く』



I778.2 寺脇 研 朝日新聞社
 『韓国映画ベスト 100』

N 778.2 金 鍾文 パンドラ
 『韓国映画躍進の秘策
 韓日文化交流の新時代』



N 778.2 すん はぎ 文芸社
 『コリアンワールドへの招待
 韓国最新ヒット』



N 778.0 カ 『韓流熱風』
 コ・サン Chol 朝日新聞社

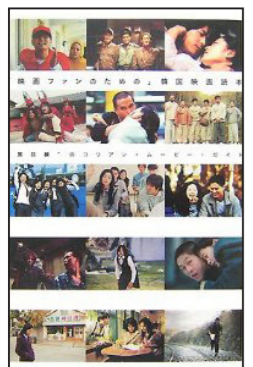


言語

829.1 窪田 守弘 南雲堂
 『映画でハングル
 韓国映画 30 本 + ハングル』



俳優



N 778.2 ソニー・マガジズ
 『映画ファンのための
 韓国映画読本』

778.2 キネ旬ムック
 『韓国・香港
 ベストスターセレクション』



原作



B 913.6 木村 元子 小学館
 『私の頭の中の消しゴム』

913.6 『明日の記憶』
 荻原 浩 光文社

778.1 『明日の記憶』
 堤 幸彦 / 監督 東映ビデオ



アルツハイマー病



F 916 大沢 幸一 講談社
 『妻が「若年認知症」になりました』



H 493.7 真鍋 弘樹 朝日新聞社
 『花を 若年性アルツハイマー病と生きる夫婦』



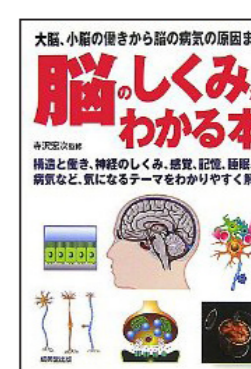
H 493.7 志村 秀樹 アスペ
 『本当の若年性アルツハイマー病
 誤解だらけの難病を理解する最新知識』



F 916 一関 開治 二見書房
 『記憶が消えていく
 アルツハイマー病患者が自ら語る』



H 493.7 植木 彰 法研
 『アルツハイマー病がわかる本
 正しい理解と最善の対処のしかた』



491.3 寺沢 宏次 成美堂出版
 『脳のしくみがわかる本
 大脳、小脳の働きから脳の病気の原因まで』